

2025/9/3 (水)
～ 11/28 (金)

2000 年 9 月 11 ～ 12 日、東海地方では時間雨量約 100mm、日雨量 400 ～ 500mm という過去最大級の集中豪雨に見舞われました。この「東海豪雨」(地域によっては「恵南豪雨」)により市街地は浸水し、中山間地では斜面が崩壊して、多くの河川では大洪水となりました。近年、東海地方は大きな被害を免れてきましたが、将来の豪雨災害に対する懸念は熾り続けています。

雨がもたらす災いと恵みを理解し、 変動する気候に適応するために

気候変動は、気温を上昇させるだけでなく、雨の降り方も変えています。昨今、この影響を軽減すべく、温室効果ガスを削減する緩和策や変化する気候への適応策が進められています。降雨を制御できない以上、地表の水が増え過ぎないように、また、減り過ぎないように管理していくことが求められます。川を横断するダムなどによる流量調節はその有効な方策の一つですが、降雨が極端に多くなったり少なくなったりするとこのシステムは破綻してしまいます。



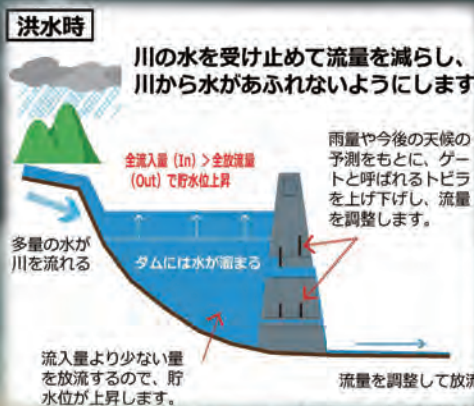
愛知用水の水源・牧尾ダム(木曽川水系王滝川、長野県木曽町)からの放水の様子(2021年8月11日撮影)

将来にわたって持続可能な社会を築いていくため、私たち一人ひとりも、それぞれにできる緩和・適応策を進める必要があるのです。東海豪雨から 25 年の節目を迎えるに当たり、当時起こったさまざまな事象を通じ、身近な雨がもたらす「災い」と「恵み」について考えてみませんか。

監修：田代 喬



東海豪雨に伴う矢作川(愛知県豊田市)の洪水と左岸からの越水氾濫(出典：国土交通省豊橋河川事務所(2003)「矢作川流域の現状と課題・治水編」第2回矢作川流域委員会資料)



ダムによる洪水調節(出典：田代(2022)「ダムの影響、身近な水の環境科学」第2版(日本陸学会東海支部会編集、朝倉書店、pp.38-39))

期間中、企画展スペシャルギャラリートークを開催します。※詳細は裏面をご覧ください。

東海豪雨から25年

雨展(巡回展)
同時開催！
10月8日(水)
～ 11日(土)



減災館

Disaster Mitigation Research Building

名古屋大学減災連携研究センター

〒464-8601 名古屋市千種区不老町
Tel: 052-789-3468 Fax 052-789-5023
開館時間：13:00-16:00(入館は15:30まで)
休館日：日祝・月・火曜日、最終土曜日
※天候、行事等の諸事情により上記以外でも急遽休館になる場合がございます。
※最新の情報はHPにてご確認ください。
https://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/?page_id=22
(右側のQRコードからもご覧いただけます)



第38回特別企画展 東海豪雨から 25年



雨がもたらす災いと恵みを理解し、
変動する気候に適応するために

スペシャルギャラリートーク

- 9/3 (水) 田代 喬「東海豪雨によって起きた現象、被害」
【※変更】9/10 (水) 高瀬邦夫「東海豪雨—今なら予測できる?—」→「東海豪雨、気象情報今昔物語」
9/26 (金) 田中隆文「土砂災害。東海豪雨による被害と今後の備え」
10/10 (金) 田代 喬「雨がもたらす災いと恵み」(巡回展・雨展にちなんで)
【※追加】10/11 (土) 高瀬邦夫「東海豪雨、今なら予測できたか?」
10/15 (水) 田中隆文「東海豪雨の教訓と地区防災計画制度の活用」
11/8 (土) 高瀬邦夫「東海豪雨、予測できるならどう行動する?」
11/26 (水) 田代 喬「気候変動下に生きる私たちができる緩和と適応」

■時間：いずれも 13:30 ~ ■場所：減災館

※上記の通り、スペシャルギャラリートークの内容を変更します。

雨展「あらぶる雨・めぐみの雨」(巡回展)同時開催！
10月8日(水)～11日(土)

企画・制作：水の巡回展ネットワーク

